

業績予想の修正と今後の取組みについて

2005年10月14日

日本ビクター株式会社

このプレゼンテーション資料に記載されている記述のうち、将来を推定する表現については、将来見通しに関する記述に該当します。これら将来見通しに関する記述は、既知または未知のリスクおよび不確実性並びにその他の要因が内在しており、実際の業績とは大幅に異なる結果をもたらす恐れがあります。これらの記述は本プレゼンテーション資料発行時点のものであり、経済情勢や市場環境によって当社の業績に影響がある場合、将来予想に関する記述を更新して公表する義務を負うものではありません。実際の業績に対し影響を与えうるリスクや不確実な要素としては、(1)主要市場(日本、米州、欧州およびアジアなど)の経済状況および製品需給の急激な変動、(2)国内外の主要市場における貿易規制等各種規制、(3)ドル、ユーロ等の対円為替相場の大幅な変動、(4)資本市場における相場の大幅な変動、(5)急激な技術変化等による社会インフラの変動、などがあります。ただし、業績に影響を与えうる要素としてはこれらに限るものではありません。

1. 05年度上期業績と悪化の要因

(単位:億円)	見込	当初公表	前年実績	公表比/差	前年比/差
売上高	3,850	4,300	4,102	90%	94%
営業利益	▲40	70	43	▲110	▲83
純利益	▲165	▲40	▲44	▲125	▲121



民生DVDレコーダーと液晶テレビが2大要因

■セグメント別営業利益

	現状見込	前年比
民生	▲32	▲98
産業	▲7	0
デバイス	▲1	13
ソフト・メディア	8	5



- DVDレコーダー事業が負のスパイラルへ
 - 先行機サービスコストの予想以上の増加
(ソフト問題に部品不良が加わる)
 - 開発モデル数を半減せざるを得ない状況へ
- 拡大するフラットパネルディスプレイ市場で先行できず
 - アウトソーシング開発液晶テレビの日程遅れ
 - 市場売価下落への対応スピードの遅れ

2. Victor・JVCの目指す姿と生き抜く姿

社員全員が共有し
業績回復のスピードを
あげるために



Victor・JVC

The Perfect Experience

高品位な音楽と映像を通じて、お客様に
最高の感動と100%の満足をお届けする

お客様やパートナーに
共感やご支持を
いただくために

Only1 ニッチトップ

全ての経営活動におけるメジャメント

ユーザーターゲット

顧客セグメント別
差別化技術

商品ラインアップ
(H/M/L)

流通との商談

買い場のフォロー

高付加価値経営と高速回転経営の両立で
真のお客様価値創造企業を目指す

3. 構造改革の加速

商品化
スピードは速く

デジタル家電を取り巻く経営環境

商品寿命は
短く

売価下落は
激しく

開発工数は
膨大に

苦戦の原因

根本的なところで他社に比べて力不足で、
デジタル時代のスピードについていけなかった

Time to Market
の考え方の欠如

開発プロセス改革による
ソフトバグ撲滅と
開発リードタイム短縮

設計VEを含めた
コストダウンの推進

全プロセスを通じた
リードタイム短縮による
無駄のない生産体制

《当初計画》

1. 経営オペレーション改革の推進
2. 生産拠点の見直し
3. 雇用構造の見直し

推進中の
経営改革・構造改革の
レベルをもう一段あげる

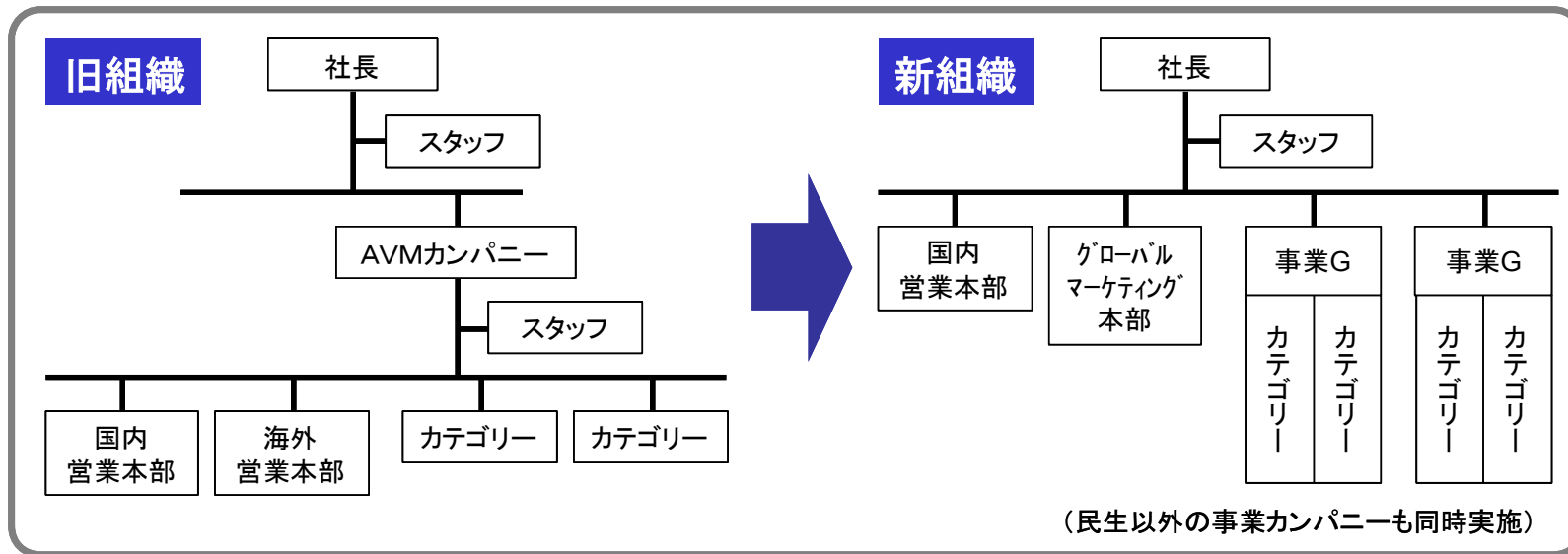
4. 全社機構改革

1

事業カンパニー制の解消と
小規模な事業グループへの再編



経営の見える化と
時代の要請に応えられるスピード経営の実現



2

民生営業部門を本社直轄へ



マーケット視点経営の強化

3

共通サポート部門のスリム化と
スタッフ部門の集約・一元化



フロントラインの強化とバックヤードの軽量化

5. 経営改革の目指すもの

オペレーション改革

～継続取組みテーマ～

- 在庫削減～IPS正常化
- 品質改革
- 原価改革
- 内外製戦略
- 開発マネジメント改革

全社機構改革

- 事業カンパニー制の解消
- 民生営業部門本社直轄
- 共通サポート部門スリム化
スタッフ部門集約一元化
- 新規事業化推進会議
の設置

雇用構造改革

- 500名から
700名規模に拡大

生産拠点見直し

- 今年度中に
1～2拠点を削減

しくみと風土の改革によってVictor・JVCの企業文化を変える

- ・ ガラス張りの経営
- ・ 早いデジジョンとアクション
- ・ チャレンジングな目標
- ・ 自主責任経営

全ての仕事を
お客様視点で回す

- ・ オープンな議論
- ・ 風通しの良い組織
- ・ チームワーク
- ・ 若手人材の育成

6. 事業の柱の組立て直し

全社重点5事業(躍進21計画)

高精細
ディスプレイ

デジタルHD
ストレージ

ネットワーク
AVシステム

部品事業

ソフト
メディア事業

民生重点事業

最重点成長事業

- ディスプレイ
(D-ILA/FPD/CRT)
- 光ディスク

基幹事業

- カムコーダー
- カーエレクトロニクス
- AVシステム

組立て直し

最重点成長事業

- D-ILAハイブリッドプロジェクションシステム

基幹事業

- ディスプレイ
- カムコーダー
- カーエレクトロニクス
- AVシステム

■新規事業

- ・D-ILAフルHDフロントプロジェクター
- ・4k×2k超高解像度プロジェクター
- ・net-K2ライセンスビジネス

7. 2005年度年間業績予想

躍進21計画最終年度に向けて、経営の土台を固める

(単位:億円)

年間	見込	当初公表	前年実績	当初 公表比/差	前年比/差
売上高	8,600	9,300	8,406	92%	102%
営業利益	70	250	104	▲180	▲34
純利益	▲115	70	▲19	▲185	▲96